

[017]教育経営学研究紀要目次等

<http://hdl.handle.net/2324/1498379>

出版情報：教育経営学研究紀要. 17, 2015-03. 九州大学大学院人間環境学府(教育学部門)教育経営学研究室/教育法制論研究室

バージョン：

権利関係：

あとがき

ここに教育経営研究室・教育法制研究室による共同作業としての研究室紀要第17号が完成いたしましたので、謹んで皆様にお届け致します。例年は初夏から初秋にかけて執筆－投稿－査読－再投稿－採択－編集といった一連の作業を行うのですが、本年度は8月に日本教育学会第73回大会を九州大学でお引き受けすることとなり、八尾坂教授が大会実行委員長、元兼が九州地区大会準備副委員長ということもあって、時期を大幅にずらして、年度末の発刊という運びとなりました。本号も難産でした。とくに昨年までの編集委員や屋台骨を支えてきたメンバーが次々に大学に就職し、残されたのはニューフェースの院生ばかりという研究室のお家事情もあって、山口東京理科大学の畑中大路氏には遠路・福岡にて編集業務の労をとりながら次世代への継承を行っていただきました。また、修士入学と同時に九州教育経営学会をはじめさまざまな業務を求められている江藤将行氏には内助の作業をお願いしました。編集委員お二人の多大なる尽力のお蔭でなんとか無事に刊行することができました。ここに記して御礼申し上げます。

今回は3本のD論梗概を掲載いたしました。研究室は順調に博士学位取得者を輩出しているようにみえますが、研究室に入り学位を取得するまでにはおよそ10年近い歳月を要します。その間に多くの葛藤やさまざまな問題を抱えながら研究生活を継続しなければなりません。大学院重点化された今日においても奨学金返還義務や高騰化した授業料など院生たちの置かれた状況は必ずしも十分なものではありません。留学生や社会人もそれぞれに多くの制約を抱えています。それでも毎年新たにメンバーが加わり毎日朝から夜遅くまで研究室で真摯に地道に課題に向き合っている姿に触れ、それぞれの大志を応援できる体制づくりを模索しているところです。高い水準で切磋琢磨する研究環境をいかに整えるかが我々教員の仕事だと自覚しています。全国学会の業務を引き受けたり、外部資金を獲得して共同研究を受託したりすることは院生たちにとって迷惑な話かもしれませんが、九州の地であってつねに全国レベルの刺激を持ち込むことも必要だと考えるように至りました。

幸い近隣にOB・OGや研究室を応援してくれる関係者がふえて参りました。我々教員では不足している部分は多々ありますが、こうした「社会的オジ」の存在が研究室の財産です。本研究室紀要をご高覧いただき、ぜひ忌憚のないご意見、ご批判をお寄せください。行き届かない指導を棚にあげるようで恐縮ですが、「社会的オジ」として皆様のご鞭撻によりぜひとも研究室を、若い院生たちを育てていただければと切に願っております。

2015年 節分の節句に
元兼 正浩